

◆ 平成28年度 活動報告シート ◆

団体名：浦和おもちゃの病院

19A-34

代表者：院長 中山 修

URL :

1. 活動が必要とされた状況

近年成熟化された社会においては、物が潤沢にあふれ、ややもすると粗末に扱われ、結果として世の中にゴミの大量発生、環境問題、資源の浪費につながり、今や社会の大きな問題となっている。このような環境の下で、私達のグループは、ささやかではありますが、おもちゃの修理を通じてゴミの減量化、再資源化を図り、環境保全に一石を投じるとともに、次世代を担う子供たちに‘もの’を大切に作る心を育み、一方では高齢化社会の進行とともに定年退職者等高齢者の‘生きがい作り’にも大きく貢献しております。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2001年4月に浦和ふれあい館を拠点として活動を開始以来、年々活動拠点、スタッフを充実、拡充し、65歳以上高齢者21名を含め24名で運営しております。今年度は4月から1月末現在の延べ数で525人のスタッフにより、59日で、83回の開催により、1,101件を受付、完治率約90%が実績です。

3. 活動の成果

直接的成果は、おもちゃの修理完了により再利用されゴミとして廃棄されるものが減少、減量化、その結果としての再資源化です。私達にとっての一番の成果は、大切なおもちゃを再び手にして喜ぶ子供たちの笑顔です。さらに、この子供たちが成長して物を大切にする心が育まれ、次代につなげていくことが出来れば、これこそ最高の成果です。助成金による成果は、助成金により購入した電動工具等の機材を各拠点の責任者に配布することにより修理時間の短縮化、各拠点での修理完結率の向上により、即日引き渡し率が約3割向上し、依頼者の満足度が向上するとともに、新しいおもちゃ（工具）を手にしたスタッフ一同が子供の様に嬉々として益々活躍する姿です。

4. 今後に残された課題

子供のおもちゃは、幼児期のものほど使用期間が短く、ほんの一時期しか使用されず放置されるものが多い。さらに少子化のため、その使用期間は短くなっており、再利用の可能性が高い。このような現状に鑑み「おもちゃバンク」のようなものを立ち上げ、社会全体でおもちゃの有効活用を可能とするなんらかの取り組みが出来ないかと考えております。



浦和おもちゃの病院開催（ふれあい館）



共通工具一式（5セットを準備した）